

第 1 回あさご未来会議対話内容まとめ

I コロナ禍の状況下で学んだこと

1 人と人とのつながり

- ① 人と人とのふれあい、つながり、コミュニケーションの大切さ。(複数)
- ② 家族の大切さ。家族との絆。(複数)
- ③ 友だちの大切さ。
- ④ 地域コミュニティの大切さ。(複数)
- ⑤ 表情の大切さ。(複数)

2 地域性

- ① 朝来市の強み、田舎の良さが明確になったこと。(複数)
- ② 就職先の選択として地方の魅力を感じることに。

3 新たな価値、考え方

- ① オンラインを活用すること。(複数)
- ② 情報等を自分で見極める力をもつこと。(複数)
- ③ 今、出来ることで工夫すること。(複数)
- ④ 新しいことに挑戦すること。
- ⑤ 学び続けることの大切さ。(複数)

4 健康管理

- ① 健康管理の大切さ。
- ② 食事の大切さ。

II 「これまで」を語る ～第 2 期朝来市創生総合戦略からこれからの朝来市づくりや朝来市での暮らしに、特に大切だと感じていること～

区 分		高校生 大学生	60歳未満	60歳以上	合計
■基本目標 1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり					
1 ASAGOiNGな人を育む					
(1)	市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり	4	7	6	17
(2)	市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり	2	8	7	17
2 ASAGOiNGな仲間づくり					
(1)	移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり		3	3	6
(2)	結婚を希望する人の出会いの機会の創出			2	2
(3)	移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実	3	1		4
3 一人一人の行動につなげる情報発信					
(1)	一人一人の行動につなげる情報発信の充実		1	2	3

区 分		高校生 大学生	60歳未満	60歳以上	合計
■基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり					
1 内発的な経済成長					
(1)	市内企業で働く人材の確保		2	2	4
(2)	市内企業等の稼ぐ力の向上	2	4	3	9
(3)	誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現	3	4	2	9
2 交流人口拡大による経済循環活動の促進					
(1)	朝来市の強みを生かした観光誘客の推進	3	1	2	6
(2)	観光客一人当たりの観光消費額の拡大			2	2
(3)	インバウンド観光の推進	1			1
3 儲ける農林畜産業への転換					
(1)	農林畜産業の担い手の確保・育成	2	2	4	8
(2)	農業所得の向上に向けた取組の推進		2		2
(3)	生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進			1	1
(4)	森林の利活用の推進	1	1	3	5
■基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり					
1 地域コミュニティを基盤とした誰もが居場所と役割のあるまちづくり					
(1)	地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進			1	1
2 誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり					
(1)	一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現	5	5	4	14
(2)	在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現			2	2
(3)	誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進				0
3 まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化					
(1)	地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進		1		1
(2)	持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現		4	1	5
(3)	市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置				0
(4)	生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現			1	1

<大切だと感じる理由>

■基本目標 1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

1 ASAGoING な人を育む

(1) 市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながる ASAGoING な人づくり

- ① 自己肯定感を育むことが重要。自己肯定感が高まると朝来市も良くなる。(60歳未満)
- ② 自己肯定感は心の土台そのものにもかかわらず朝来市民は低い。自己肯定感を高めることが大切。(60歳未満)
- ③ 主体性や多様性を育むことが大切。
- ④ 自分のやりたいこと(主体性)を活かすことができると、力が発揮できる。
- ⑤ 人と人との交流を通してコミュニケーション力を育むことが大切。
- ⑥ リモートを活用して都市部の人でも参加でき、市内の多様な人が集まって対話する場が大切。(60歳未満)
- ⑦ 多様な対話の場に参加することを通して、互いに認め合える関係になる。
- ⑧ 対話する機会が少ない。市民との対話の場は市民のシビックプライドを育む場になる。
- ⑨ 自分のまちを自慢できるまちにできること、シビックプライドを育むことが大切。
- ⑩ シビックプライドを育むには、自分のまちを知ることが大切。
- ⑪ シビックプライドを育むことは、まちの活力にもつながる。シビックプライドを育むことが大切。(60歳未満)

(2) 市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

- ① Uターン時に上の世代の人に色んなことを教えてもらえた。世代間の交流を図りながら、得意なことを活かす場が大切だと感じた。(60歳以上)
- ② 自分らしく生きながら、得意なこと好きなことの延長にまちとつながることが大切。(高校生・大学生)
- ③ 得意なこと、できることを通して、新たな交流や地域づくりにつなげることができる。
- ④ 得意なことでも無理なく地域で活躍できることが大切。
- ⑤ 得意なことなら率先して行動でき、地域の活動にも協力しやすい。
- ⑥ 得意なこと、好きなことは仕事につながる。
- ⑦ 興味あることには、熱心に取り組める。好きなことを活かして地域社会の発展につなげていくことは重要。(高校生・大学生)
- ⑧ 同好会等のグループの活動は、交流が広がる。
- ⑨ 趣味は話すきっかけになり、人とのつながりを広げる。
- ⑩ 得意なことを地域で活かすことができるようにするために、一人一人に関心を持つことが大切。地域の人材を見つけていくことにつながる。
- ⑪ 人と人とのつながりが最近希薄になっている。互いを深く知ることで、得意なことも見えてくる。(60歳以上)

- ⑫ 若い世代が自分の好きな活動がしやすくなれば、Uターン者増にもつながる。(60歳未満)
- ⑬ 地域に貢献できることは自己実現につながる。

2 ASAGOiNGな仲間づくり

(1) 移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

- ① 人と人とのつながりや、まちの魅力により移住推進や関係人口の創出・拡大につなげていくことが大切。(60歳未満)
- ② 移住者により多様な価値観を地域で受入れることで、地域が活性化する。
- ③ Uターンしやすい受入れ体制を整えることで、Uターンしやすくなる。(仕事面と地域の受入体制)
- ④ 朝来市の中から関係人口を受け入れる雰囲気づくりをしていくことが必要。

(2) 結婚を希望する人の出会いの機会の創出

- ① 出会いを作れる人(人と人をつなぐ人)が減少している。楽しみを分かち合える場づくりをしていくことが必要。(60歳未満)
- ② 40代の経済力が少なく、少子化につながっている。
- ③ 結婚すればすぐに子どもが生まれるというものでもない。

(3) 移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

- ① 移住後の暮らしや人と人とのつながりなど受け入れ体制の充実により、新たな移住につながる。(60歳以上)
- ② 地域内の交流の場が移住者にとって敬遠されることにつながらないか、やり方など見直すことも大切。
- ③ 移住者の方が営業されているカフェや生産されている農産物などを購入し、市民が応援していくことも大切。
- ④ 移住者が住みやすいように、多様性を受け入れられる地域になることが大切。(高校生・大学生)
- ⑤ 今住んでいる人も住みたいと思えるまちづくりに意識を変えることが大切。(高校生・大学生)

3 一人一人の行動につなげる情報発信

(1) 一人一人の行動につなげる情報発信の充実

- ① 世代にあった情報発信が大切。(高校生・大学生)
- ② 市民も自分自身や地域がやっていることを発信することで、興味を持ってもらえる機会につながる。

■基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

1 内発的な経済成長

(1) 市内企業で働く人材の確保

- ① 人材の確保に向けて、市内企業の情報発信も充実させていくことが大切。(60歳以上)
- ② 市内企業の人材確保を目的として、情報発信方法など人材確保戦略を企業へ向けて情報発信や情報共有を図ることが大切。(60歳以上)

- ③ 会社の魅力、働く人の魅力、スキルの魅力を発信することなどにより、就職や移住などにつなげていくことが必要。(60歳未満)
- ④ 市内企業の若者にとっての魅力をケーブルテレビ等活用し発信し、Uターンや移住につなげる。
- ⑤ 朝来市へUターンをサポートする支援が必要。
- ⑥ 地域でアンケートをとったところ、Uターンしない理由は働く企業がないこと。働く企業や環境があれば、Uターンにもつながる。
- ⑦ コロナ禍で全国的には失業者が増えている中で市内企業は人手不足の状況。マッチングすることで人手不足を解消し、朝来市への移住にもつなげることができるのでは。(60歳未満)
- ⑧ キャリア教育を充実することが大切。
- ⑨ 若者にとって魅力のある仕事(IT関係など)が少ない。(高校生・大学生)

(2) 市内企業等の稼ぐ力の向上

- ① 市内企業で働く従業員の収入の安定確保に向けて、企業の成長が大切。
- ② 自分がやりたいことを家族や地域の方が応援してくれると嬉しい。
- ③ 新しいことにチャレンジしていない。チャレンジが多く生まれていくことが大切。
- ④ 市内には優秀な人材がいる。仕事づくり、人材づくりにつなげることが大切。(60歳以上)

(3) 誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

- ① キャリアアップできるなど若者にとって働く魅力のある企業があると、就職先の選択肢にあげることができる。
- ② 若い人が市内企業で働きたくなる企業の魅力を作ることが大切。(60歳未満)
- ③ 在宅勤務などの多様な働き方ができるような職場環境づくりが大切。(60歳未満)
- ④ コロナ禍で働き方が変わっていく中で、朝来市内では対応が遅れていると感じている。リモートワークに対応できるように企業等も変わっていく必要がある。
- ⑤ コロナで働き方が変化している。新しいやり方や雇用、さらには田舎の強みをいかし、多様な働き方が実現できるようにすることが必要。
- ⑥ コロナ禍で、ワークライフバランスや働き方(テレワークなど)が見直され、地方でも就業ができる時代になってきた。自然の中での子育てなど都会にない魅力をこの機会にPRし、新しい働き方へつなげられるようにする。
- ⑦ 企業の外国人技能実習生は仕事が継続しない。企業自身も意識を変えて、多様性を受け入れ、制度作りなどをしていく必要がある。
- ⑧ 暮らし方や悩みに対応した働き方ができることが大切。
- ⑨ 「外国人だから」「女性だから」できないような仕事をなくし、望む仕事を望む働き方のできるようにしていくことが大切。
- ⑩ 男性が仕事をするという昔の価値観から転換し、女性もやりたい仕事ができるようにしていくことが大切。

2 交流人口拡大による経済循環活動の促進

(1) 朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

- ① 但馬内で連携し観光誘客を進めることが大切。(高校生・大学生)
- ② 市内へ市内の魅力を発信することが大切。(60歳以上)
- ③ 短期的に見ると観光に力を入れると良い。(60歳以上)

(2) 観光客一人当たりの観光消費額の拡大

- ① 観光客に市内で消費してもらえる場所・物・事を充実させていくことが大切。(60歳以上)
- ② 観光で勝負していくことができる。多くの人に来てもらうことよりも、来てもらった人に消費してもらうことが大切。(60歳以上)

(3) インバウンド観光の推進

- ① 外国人向けの宿泊先を確保する。
- ② インバウンド観光に向けて、語学力を向上したりすることが大切。(高校生・大学生)

3 儲ける農林畜産業への転換

(1) 農林畜産業の担い手の確保・育成

- ① 安全な農産物を市内で提供(販売・給食)できるようになれば、子育て世代などの人口増にもつながる。
- ② 農林業のブランディングを行い、課題をチャンスと捉えていくなど、見せ方などで担い手の確保をしていくことが必要。移住推進にもつながる。
- ③ 農林業に求人を出しても人が来ない。若い人にとって魅力的に感じるのが分かりづらい。魅力やメリットを発信することが必要。(60歳未満)
- ④ 第一次産業の魅力をもっとPRしていくことが大切。
- ⑤ 農地や林業など資源はあるので活用していく。(高校生・大学生)
- ⑥ 農地や自然を生かした農業や畜産業を伸ばすことが将来の強みになる。
- ⑦ 遊休農地が増えている。将来どのように活用するのか、真剣に考えていく必要がある。(60歳以上)
- ⑧ 家族で農林業に携わっていても採算がとれないため、若者に継がせたいと思えない。

(2) 農業所得の向上に向けた取組の推進

- ① 市内の学校給食を市内の質の良い農産物にしていくことで、給食の安全だけでなく、市内農家の農業所得の向上につながる。(60歳未満)
- ② オーガニックは、社会的にも需要が高まっている。オーガニック野菜作りについて、市がバックアップするしくみづくりをしていくことで、農業所得の向上につなげる。(60歳未満)
- ③ 共同経営や集約化などにより効率性を向上させていくことが大切。(60歳以上)
- ④ 農業所得が増えると担い手も増える。(60歳未満)

(3) 生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

(意見なし)

(4) 森林の利活用の推進

- ① 林業は自然災害や森林荒廃の防止にとってとても大切。自営で行っているが、免許が必要な仕事も多く、新しく始めるには負担が大きい。林業の魅力を発信し、従事する人が増えるようにしていくことが大切。(60歳以上)
- ② 森林を守る教育を学校でしていくことが必要。(高校生・大学生)
- ③ 観光と農林畜産業は、これからの朝来市の産業になる。(60歳未満)

■基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

1 地域コミュニティを基盤とした誰もが居場所と役割のあるまちづくり

(1) 地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

- ① どんなことでも地域で活動でき、地域の方も協力してくれるのが朝来市の良さ。(60歳未満)
- ② 地域の中で小さな活動から大きく広げていくことができる。(60歳未満)

2 誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

(1) 一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

- ① 地域での交流の場・ふれあいの場などを通して、つながりづくりを。
- ② 子どもから高齢の方までの幅広い交流の場づくりが大切。
- ③ 高齢者の方や在住外国人などが引きこもりや孤立しないように、出かけ、人とつながる場を創ることが大切。健康づくりにもつながる。
- ④ 子育てママなど孤独を感じている人が社会とつながる場づくりをしていくことが大切。誰もが心豊かに安心して暮らせることにつながる。(60歳未満)
- ⑤ 一人暮らしでも地域とつながり、生きていくことができる地域社会にしていくことが大切。(60歳以上)
- ⑥ 多様な人と人とのつながりが、互いの応援につながったり安心につながったりする。
- ⑦ コロナ禍でも集まる場所をつくったが、人と人とのつながりが大切だと感じた。
- ⑧ 地域での人と人との交流は、お互いさまの気持ちが育まれる。(60歳未満)
- ⑨ 高齢化社会になりからこそ、人と人とのつながりがより重要。未来への貢献につながる。(高校生・大学生)
- ⑩ コロナで集まる機会が減り、高齢者の方の健康が心配になった。集う場、出かける場があることが大切。
- ⑪ 人と人とのつながりは、子育てしやすい環境につながり、若い人が帰ってきやすくなる。(60歳未満)
- ⑫ 慣れない土地より慣れた土地の方が過ごしやすい。(高校生・大学生)

(2) 在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

- ① 在住外国人の方の生活を知り、困りごとを把握することが大切。(60歳以上)
- ② 外国人の方との地域での交流がない。交流する機会が必要。(60歳未満)

(3) 誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

(意見なし)

3 まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

(1) 地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

- ① 一つの地域自治協議会だけではできないこともある。自治協同士の連携が必要ではないか。(60歳未満)

(2) 持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

- ① バスの運行本数の増加により、利便性を向上させる。(60歳未満)
- ② 車を運転できなくなることを想定すると公共交通の充実は大切。(60歳以上)

(3) 市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

(意見なし)

(4) 生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

- ① 自然の豊かさは朝来市の財産である。(60歳以上)
- ② オオサンショウウオを観光等に活かすことで、地域の豊かさを高めることができる。(60歳未満)

Ⅲ 「これから」を語る ～これまでや With コロナのことも踏まえながら、これからの朝来市づくりや朝来市での暮らしに大切だと感じていること

1 全般的なこと

- ① 朝来市内で経済的に自立ができるまちへ。地域内の経済循環。(70代、男性、移住者)
- ② 学び・起業・活動などやりたいことにチャレンジができるまちであること。
- ③ 心豊かな暮らしを実現していくこと。(60代、男性)
- ④ 市民一人一人が幸せを実感すること。(50代、男性)
- ⑤ 朝来市として、世界に自慢できることを生み出すこと。住んでいるところに「誇り」が持てることにつながる。(60代、男性)
- ⑥ 誰にとっても優しいまち、多様性があるまち、チャレンジしやすいまち。(40代、男性、移住者)
- ⑦ 人に優しい、住みたいと思うまちに。(40代、女性)
- ⑧ 今の良いところを残しながら、新しいものを取り入れていく。
- ⑨ 今ある魅力を活かし、住んでみたいと思うまちづくりを推進。(60代、男性)

2 子育て環境・教育・学びの充実

(1) 子育て環境・教育環境等の充実

- ① 健康な体でいることが大切。特に子どもたちには、質の良いものを食べてもらいたい。こども園や小中学校の給食ができる限りオーガニック給食にしていくと良い。(30代、女性)
- ② 子どもの才能をつぶさない教育にすること。(30代、男性)
- ③ 子育て環境を充実させていくこと。子育て環境の充実は、若い人が移住する要素になる。行政と企業の協力で、住まいの環境や子育て環境を充実。(60代、男性)
- ④ 子育て支援施策を徹底的に行うことで、若者のUターン・移住につなげる。コロナ禍において安全な子育て環境を求めていることは追い風。(60代、男性)

- ⑤ インターネットの活用など学習方法を最適にしていくこと。(10代、男性)
- ⑥ 日本一の義務教育のまちにする。(80代、男性)
- ⑦ 高校生が集え、多様な人と交流できるような場があると良い。
- ⑧ ふるさと教育を充実し、都市部へのあこがれより朝来市への愛着が増すようにすること。(40代、男性)
- ⑨ 子どものときに都市部との交流などをするにより、地元の良さや愛着、自信を育む。(60代、男性)

(2) 人材育成の場、生涯学習の充実

- ① シビックプライド・地域を愛する人を育み、人と人とのつながり（ネットワーク）づくりが大切。(60代、男性)
- ② 自分が住んでいるまちについて知ること。良いところを見つけ、誇りを持つことが大切。(10代、女性、移住者)
- ③ 人と人がつながる場、対話する場が大切。コロナ禍の場合は、オンライン等活用して、今まで以上につながりをつくるのが大切。(20代、女性)
- ④ あさご未来会議のような多様な人と対話し、交流できる場が大切。このような場が増えると、シビックプライドが高まる場にもなる。(10代、男性)
- ⑤ 対話する場の創出。会議等に参加する人が固定化されている。多様な人が参加できる場づくりを。(30代、男性)
- ⑥ コロナ禍でも多様な対話の場をなくしてはいけない。リアルもリモートもそれぞれのメリットがある。(40代、女性、移住者)
- ⑦ 高齢になっても学びの場があること。(70代、男性、移住者)
- ⑧ 高校生や若者などと市長や市議会議員との意見交換する場を増やし、若者の政治離れを防止するとともに、市政に若者の意見を反映する。(70代、男性)

3 移住等の推進

(1) 移住やUターンの推進

- ① 空き家の利活用。日頃から空き家を管理し、移住者や災害時の避難所等で活用できるようにする。(70代、男性)
- ② コロナ禍で田舎の有利さが明確になったので、活かしていく。
- ③ コロナで地方移住がより魅力を増している。都市部とのほど良い距離、魅力ある自然環境雄大切にして移住を推進する。(50代、男性)
- ④ 仕事と住まいをセットで紹介をしていくこと。
- ⑤ 朝来市出身の人（転出した人）の意見を聞く場を設け、Uターンの利点等をPRする。資料等を定期的に送付し、JターンやUターンの推し進める機会にする。(70代、男性)
- ⑥ 移住者がなぜ朝来市に移住したのかの過程や理由などを知り、次なる移住推進につなげていく。
- ⑦ 多様な人が交流する場をつくり、人が人を呼ぶ構造を実現する。(50代、男性、移住者)

- ⑧ 新規就農、起業支援などと連携した移住定住の促進。空き家の利用促進も兼ねて。(60代、男性)

(2) 移住者等の受入れ体制の充実

- ① 移住後のサポートが弱い。地域のルールが分からない。相談窓口は、行政よりも自治協の方が適している。移住サポーターの活用の充実も進めていく。(50代、女性、移住者)
- ② 移住者に対する風当たりが強い。多様性を認める、柔軟性のある受け入れが大切。(20代、男性)
- ③ 市民だけでかたまらず、移住者にも優しく。(40代、女性)

4 情報発信の充実

(1) 発信の手法等

- ① 朝来市民への情報発信の充実
- ② ユーザーにあった効果的な発信方法
- ③ 市民自らがまちの良さ、魅力を伝えられるようにすること。
- ④ 地域や仕事のことなど気になる情報を得る(交換)するオンラインサロンづくり。(30代、女性)

(2) 発信の内容等

- ① 市民主体の様々な動き・活動等を発信すること。
- ② 朝来市の中で、「楽しさ」「面白さ」「好きなこと」「得意なこと」の情報発信。それによって人と人がつながる。(30代、男性、移住者)
- ③ 朝来市の良いところを発信すること。(10代、女性、移住者)
- ④ 朝来市の良いところをはっきりと認識し、表面化し、情報発信すること。自身の発生率、犯罪の発生率、自然災害の発生率など。(60代、男性)
- ⑤ 災害に強いまちであることをプロモーションする。(30代、男性)
- ⑥ SNSの使い方が大切。人を励ましたり元気づけたりするために使い、誹謗中傷をしないようにしていくことが大切。(20代、女性)

5 産業の振興

(1) 新たな働き方、魅力ある企業・職場環境等の推進等

- ① テレワーク等新しいワークスタイルを提案し、優秀な人材の確保につなげる。
- ② 在宅勤務が可能になるネット環境の整備(70代、男性)
- ③ コロナ禍でも安心した職場環境をPRし、都市部の企業等を朝来市に誘致する。
- ④ コロナを機に、企業を呼び込む。
- ⑤ 地理的優位性を活かし、リモートワークができる環境を整備。(70代、男性、移住者)
- ⑥ 企業の移転を住宅とセットで誘致する。
- ⑦ 都市部にいかなくても地元で働くことができるように、市内企業が充実していくことが大切。(10代、女性)
- ⑧ 多様な働き方ができる企業を増やしていくことが必要。また親世代のイメージも変えていくことが必要。(20代、男性)

- ⑨ 魅力ある企業・仕事づくり。(20代、男性)
- ⑩ 子育てと仕事が両立しやすい仕事を紹介するなど、子育て世代の会社紹介・相談会を開催すること。(30代、女性、移住者)
- ⑪ 性別に関係なくやりたい仕事ができる、働くことができる職場づくり。(10代、男性)
- ⑫ 子育て世代が働きやすい環境づくり。(60代、男性)
- ⑬ 子育てしながらでも働きやすい職場環境づくりや在宅ワークの増加など、子育て世代でも働きやすい働き方の実現。(20代、女性)
- ⑭ 在宅ワークなど介護しながらでも働くことができる仕事をつくる。(60代、男性)
- ⑮ 年代に応じ生きがいとなる働く場の確保をしていくこと。(60代、女性)
- ⑯ 多様な人が連携し、やりたい仕事に挑戦するコミュニティを作る。(10代、男性)
- ⑰ パソナの但馬支店の誘致をしてはどうか。(30代、男性)

(2) 市内企業経営支援と起業者支援

- ① 人手不足になっている企業に、学生アルバイトでも生かせることがあれば高校生で支援したい。(10代、男性)
- ② 地域から必要とされる企業へ。企業の地域貢献が大切。(40代、男性)
- ③ 市内で欲しいものが揃わず、ネットで購入してしまう。小さな商店が閉店していくが、ある程度地域で購入できるように、地域のお店を守ることも大切ではないか。
- ④ 起業者を増やす取組と、起業者が溶け込めるように支援する。起業者支援を移住・定住や地域の一員につなげる。(40代、男性)

(3) 観光の振興

- ① 世代別の観光戦略を行い、ターゲット層に合わせて発信方法を変更する。(20代、男性)
- ② 新しい生活スタイルを施したうえでの観光事業の充実。(60代、男性)
- ③ 観光の活性化。(10代、男性)

(4) 担い手の確保等の農林業の振興

- ① 小学生・中学生のころから農業に携わり、次世代の人材育成を。朝来市では移住者が農業に携わっていて、楽しくなりかけている。市民も頑張るべき。(60代、男性)
- ② 決まった場所、決まった時間に働けないが、働ける人がいるので、多様な働き方で、必要な現場に労働力を提供できるようにマッチングし、第1次産業を応援する。地元の人が地元を知り、いろんな地域を応援できるチャンスにもなる。(40代、女性、移住者)
- ③ 地産地消で地元の人々の力を発揮する。
- ④ Society5.0などを活かした農業に転換。(30代、男性、移住者)
- ⑤ 年間通じて10%程度湿度が高い地域特性を生かして、産業に活かす。

(5) IT化、デジタル化の推進

- ① IT化を促進し、コロナを機に手続きを電子化するなどより便利に変換していくこと。
- ② オンライン会議等IT化を進める。ITを使える人と使えない人が互いに協力することも大切。(20代、女性)

- ③ 光ファイバーや情報通信の向上と利便性の向上。これからの暮らしに必要な通信状態を改善する。(60代、男性)
- ④ スマートシティや光回線など企業にとっても魅力あるまちづくり。

6 地域の中で心豊かに安心した暮らし

(1) 地域でつながりあい支え合う地域共生社会の実現

- ① 海外から移住してきた在住外国人と地域の人とのつながりをつくる。地域の中でのふれあいの場が大切。(10代、女性、移住者)
- ② 地域コミュニティの充実により、地域社会にどんな人(移住者・外国人・若者等)が住んでいるか知り、お互いに得意なことで助け合うことが大切。(20代、女性、移住者)
- ③ お互いを思いやるまちづくり。(60代、男性)
- ④ 誰にとっても優しいまち。(40代、男性、移住者)
- ⑤ 市民相互・移住者等に優しいまちづくり。相手を思いやり、支え合うまちへ。(60代、男性)
- ⑥ 相手に対する思いやりにより、暮らしを豊かにしていくこと。(20代、女性)
- ⑦ 相手を思いやることが大切。(20代、女性)
- ⑧ 生活の中で他人への声掛け。些細な声かけで人とのつながりを。(60代、女性)
- ⑨ 一人暮らしでも地域内で生きていけるよう、地域内でサポートしていくことが大切。(60代、男性)
- ⑩ 地域コミュニティの中で、語らいの場など高齢化社会に対する対応を地域と民生委員等が連携しながらしていくことが大切。(60代、男性)
- ⑪ こぼれ落ちる人をつくらない。集いの場などへ来ない人へフォローなど地域の中で見守っていくこと。(60代、男性)
- ⑫ 市民一人一人が誰かとつながれる交流の場が必要。(10代、男性)
- ⑬ 何かのコミュニティに属し、孤立する人をなくしていくことが大切。(30代、男性)
- ⑭ 些細なことでも話し合える場や人間関係を構築すること。(60代、男性)
- ⑮ 人と人とのつながりが切れないようにする。コロナ禍でも工夫していくことが大切。(10代、女性、移住者)
- ⑯ 交通手段がない高齢者が買い物に困らないよう、移動販売等検討が必要。
- ⑰ 若い人たちがおじいちゃんやおばあちゃんを助けながら暮らしていく。(10代、女性、移住者)
- ⑱ 自分自身を大切にしながら、地域の人に恩返しをする(地域に感謝する)考え方をもち、近所の人と助け合いながら楽しく暮らす。(70代、男性)
- ⑲ 授業で社会福祉の重要性について学ぶことが大切。

(2) 市民の主体的な活動の促進

- ① 地域の中で生涯活躍でき、健康に暮らし、まちを元気に。(70代、男性)
- ② 移住者を求めるだけでなく、自分たちも頑張る朝来市になると、おのずと魅力的な朝来市になる。まずは、市民が頑張っていこう。(40代、女性、移住者)

- ③ 若い人たちも地域が好きになり関わっていききたいと思えるような活動・イベントを開催する。地域で活動すると、つながりが広がったり、楽しくなったりする。(80代、男性)
- ④ 若い人たちが地域の活動に参加だけでなく企画していけるように、地域内の若い人への理解が必要。(20代、男性)
- ⑤ 地域活動やボランティア活動を活発にしていくことが大切。参加者が増えれば、地域の活性化やシビックプライドの醸成につながる。(30代、女性)
- ⑥ 自治協と地域住民がもっと近い関係になると良い。(30代、女性、移住者)
- ⑦ 自治協がもっとオープンな、気軽に相談できる窓口になっていくことが大切。(30代、女性、移住者)
- ⑧ 「戻す」ではなく「変える」ことで、現在にあった方法に転換することで地域力を育む。(50代、男性)
- ⑨ 若い人など地域コミュニティ(自治会など)から離れている。今求められる形へ転換していくことが大切。(50代、男性)
- ⑩ 「〇〇したい人この指とまれ！」で始まる人と人をつなぐきっかけを作る。(30代、男性、移住者)

(3) 地域医療の充実

- ① 出産できる病院、夜でも診てくれる小児科など産科と小児科の充実。(40代、男性、移住者)

(4) 地域公共交通の充実

- ① 運転免許を持っていない人の交通手段の確保。バスの利便性の向上。(30代、男性)
- ② 都市部から来る人や学生は車を持っておらず不便。公共交通機関を充実させていくことが大切。(20代、男性)
- ③ 高齢者が買い物や通院への交通の手段が不便である。地域で暮らせず、施設に入ることになってしまう。自家用運送等により地域で対応できるようにすれば、地域内の交流や活性化につながる。(40代、女性、移住者)
- ④ JR等の便数が少なく、高校生の通学に不便である。市からも要望できないか。(40代、女性、移住者)
- ⑤ SDGsの視点を入れて、誰もが移動できるようにする。(40代、男性、移住者)
- ⑥ 多様な方の行動範囲が広がる公共交通機関の見直し。どこに行きたいかの調査のし直しが必要。(40代、女性、移住者)

(5) 自然共生社会の実現

- ① 朝来市の自然を大切にしていくこと。自然環境は魅力であり、誇り、強みになる。(10代、男性、移住者)
- ② 今ある自然を強みに。自然を大切にしていくこと。(40代、女性、移住者)

7 自治体経営

- ① 人口減少社会における財政の健全化に向けて、自助・共助・公助によるまちづくりの推進。(60代、女性)

- ② 行政の考え方を変えること。例えば、観光の優先順位など。今は、質（観光消費額）より量（観光客数）になっている。（60代、男性）
- ③ なぜそのようになったのか、ふりかえり・分析し、次に活かすこと。（60代、男性）
- ④ 縦割りで対処的に仕事をするのではなく、チーム等でプロジェクト的に仕事をしていくこと。（50代、男性）
- ⑤ 職員の一人一人が市長である認識を持ち、色々な発想を持ち行動することが必要。（60代、男性）
- ⑥ 隣の市と連記できることは連携する。（30代、男性）

8 その他

- ① 朝来市にアパートを造ることを禁止し、三世代が一緒に生活することが大切。（80代、男性）
- ② ゴミ出し等、定められたことをきっちり守ることが大事。（80代、男性）
- ③ 親が子どもに家を守ることを伝えることの重要性。（40代、男性、移住者）